

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～



長崎市立三原小学校

「誇りをもち、主体的で、自律できる子どもの育成」

～安全・安心を大切に作る三原っ子～



MIHARA TIMES

令和6年7月19日発行

文責 校長 増崎 祥宣

いよいよ夏休みです。

本日19日（金）、1学期の終業式を無事終わることができました。私は校長として、4月に着任しましたが、あっという間の4か月だったように感じます。

三原小の子どもたちは、人懐っこく素直な子どもたちばかりです。あいさつもよくしてくれます。毎朝、玄関に立っていると、どの子も「校長先生、おはようございます。」と元気にあいさつをしてくれます。立ち止まって話をしてくれる子も多かったです。ボランティアの6年生ともたくさん話をすることができました。授業中、全クラスを見に行くと、にっこり笑顔で反応したり、こっそり手を振ったりする子もいます。私にとっては、楽しい1学期間でした。

子どもたちにとっても充実した1学期間だったのではないのでしょうか。1学期は72日間、1年生は2日短く70日間でした。その間、全校で、学年で、個人でがんばる姿をたくさん見ることができました。2学期も一つ一つの活動を精一杯頑張る姿を見せてくれることを期待しています。

いよいよ44日間の長い夏休みが始まります。夏休みで大切なことは、第1には命を大切に元気に2学期を迎えることです。第2には、何事もできると信じ、何にでもチャレンジする夏休みにしてもらいたいと思います。各学級では、1学期間を振り返り、子どもたちが自分自身の成長とさらに努力すべき点について、しっかりと理解できるように指導しているところです。また、今月初めに実施しました個人面談において、保護者の皆様には、1学期の子どもの生活の様子や学習の様子をお伝えしたところです。また、夏季休業中の過ごし方や学習への取組についても話があったと思いますので、ご家庭でしっかりと計画を立てていただければと思います。



図書ボランティアによる読み語りがありました。

17日、1学期最後の図書ボランティアによる読み語りがありました。笑い声があったり、集中してお話を聞いていたりするなど和やかな雰囲気の中で、様々な本の読み語りをしていただきました。「本は心の栄養」と言いますし、さらに「音読」は脳の活性化に非常に効果があると言われていて、また、読書量が豊富な子どもは豊かな文章を書くことができるとも言われています。子どもたちにとって、人生を豊かにするための本との出会いの一つとして、よい機会を作ってくださっていることに感謝します。子どもたちには、読書を夏休みに挑戦することとして話していますので、声掛けをお願いします。

